

授業科目名： 特別支援教育の実践と 課題Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 宮崎善郎、吉利宗久、下中村 武 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育の目的・目標を理解する。 特別な支援を必要とする子どもの特徴及び具体的な支援方法を理解する。 多様な学びの場における教育実践の在り方及び校内支援体制等について理解する。			
授業の概要 特別支援教育における授業づくりや学級経営に関し、個別的支援、学級全体に関わる支援、組織的な校内支援の在り方について学習する。			
授業計画 第1回 オリエンテーション、特別支援教育の理念と制度（吉利） 第2回 インクルーシブ教育システムの理念（吉利） 第3回 支援を必要とする子どもの理解と支援：通常の学級（吉利） 第4回 支援を必要とする子どもの理解と支援：通級による指導（下中村） 第5回 支援を必要とする子どもの理解と支援：特別支援学級、特別支援学校（下中村） 第6回 特別支援教育の視点を取り入れた授業：設計（宮崎） 第7回 特別支援教育の視点を取り入れた授業：展開（宮崎） 第8回 特別支援教育の視点を取り入れた授業：評価（宮崎）			
テキスト 授業で適宜配布する。			
参考書・参考資料等 吉利宗久・千賀愛（編）（2023） 特別支援教育・インクルーシブ教育のかたち 培風館			
学生に対する評価 小課題（30％）レポート課題（70％）			

授業科目名： 特別支援教育の実践と 課題Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大竹喜久、岡田千登勢、岸哲 志、大守伊織
			担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
特別支援教育の目的・目標を理解する。			
特別な支援を必要とする子どもの特徴及び具体的な支援方法を理解する。			
多様な学びの場における教育実践の在り方及び校内支援体制等について理解する。			
授業の概要			
特別支援教育における授業づくりや学級経営に関し、個別的支援、学級全体に関わる支援、組織的な校内支援の在り方について学習する。			
授業計画			
第 1 回 合理的配慮の提供（岸）			
第 2 回 特別支援教育の視点を取り入れた教材の開発（岡田）			
第 3 回 特別支援教育の視点を取り入れた教材の活用（岡田）			
第 4 回 特別支援教育の視点を取り入れた学級経営：理論（大竹）			
第 5 回 特別支援教育の視点を取り入れた学級経営：実践（大竹）			
第 6 回 特別支援教育を推進するための校内体制と連携の在り方（岡田）			
第 7 回 特別支援教育の実践上の課題：寄宿舎と学校教育（岸）			
第 8 回 特別支援教育の実践上の課題：生きづらさを抱えた子ども（大守）			
定期試験は実施しない			
テキスト			
授業で資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
吉利宗久・千賀愛（編）（2023） 特別支援教育・インクルーシブ教育のかたち 培風館			
学生に対する評価			
小課題（30％）レポート課題（70％）			

授業科目名： 特別支援教育の理念と 原理Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 宮崎善郎、大竹喜久 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 「実態把握する力」「目標設定する力」を高め、子どもに必要で内発的に取り組めるような授業を設計することができる。 「教材化する力」「イメージ化する力」を高め、実際に授業（模擬）をすることができる。			
授業の概要 特別支援学校の授業づくりにおける設計・展開・評価の各過程での留意点について学習する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（大竹） 第2回：特別支援学校の教育課程Ⅰ（全体）（大竹） 第3回：特別支援学校の教育課程Ⅱ（具体）（大竹） 第4回：特別支援学校における授業の実際（大竹） 第5回：授業づくりの過程（宮崎） 第6回：個別の教育支援計画・個別の指導計画と授業づくり（宮崎） 第7回：学習指導案による授業のイメージ化Ⅰ（集団指導）（宮崎） 第8回：学習指導案による授業のイメージ化Ⅱ（個別指導）（宮崎） 期末試験は実施しない			
テキスト 授業で資料を配布する。			
参考書・参考資料等 特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）同（高等部）			
学生に対する評価 小課題（30％）レポート課題（70％）			

授業科目名： 特別支援教育の理念と 原理Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 佐藤 曉、岡田千登勢 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 「実態把握する力」「目標設定する力」を高め、子どもに必要で内発的に取り組めるような授業を設計することができる。 「教材化する力」「イメージ化する力」を高め、実際に授業（模擬）をすることができる。			
授業の概要 特別支援学校の授業づくりにおける設計・展開・評価の各過程での留意点について学習する。			
授業計画 第1回：学習指導案の作成・評価・検討（岡田） 第2回：授業映像の視聴と学習指導案作成Ⅰ（個別指導）（岡田） 第3回：授業映像の視聴と学習指導案作成Ⅱ（教科別指導）（岡田） 第4回：授業評価・検討（佐藤） 第5回：授業検討（佐藤） 第6回：授業設計の実際（学習指導案の作成）（佐藤） 第7回：授業展開の実際（模擬授業）と授業検討（佐藤） 第8回：まとめ（佐藤） 期末試験は実施しない			
テキスト 授業で資料を配布する。			
参考書・参考資料等 特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）同（高等部）			
学生に対する評価 小課題（30％）レポート課題（70％）			

授業科目名： 特別支援教育における 授業づくりA		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 1 単位		担当教員名： 吉利宗久、下中村武、岡田千 登勢	
						担当形態：オムニバス	
科 目		特別支援教育に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等							
授業のテーマ及び到達目標 通常の学級や通級による指導、特別支援学級における自立活動の授業、あるいは自立活動の指導を取り入れた授業の設計・展開・評価の各過程での留意点を理解する。							
授業の概要 通常の学級や通級による指導、特別支援学級における自立活動の授業、あるいは自立活動の指導を取り入れた授業の設計・展開・評価の各過程での留意点について考察する。							
授業計画 第1回：オリエンテーション（吉利） 第2回：通常の学級における自立活動：基本的な考え方（吉利） 第3回：通常の学級における自立活動：授業の設計・展開・評価（下中村） 第4回：通級による指導における自立活動：基本的な考え方（下中村） 第5回：通級による指導における自立活動：授業の設計・展開・評価（下中村） 第6回：特別支援学級における自立活動：基本的な考え方（下中村） 第7回：特別支援学級における自立活動：授業の設計・展開・評価（下中村） 第8回：通常の学校における自立活動の課題（岡田） 期末試験は実施しない							
テキスト 授業で資料を配布する。							
参考書・参考資料等 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）同（高等部）							
学生に対する評価 小課題（30％）レポート課題（70％）							

授業科目名： 特別支援教における授業づくりB	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 佐藤暁、岸哲志、丹治敬之 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 特別支援学校の自立活動の授業、あるいは自立活動の指導を取り入れた授業の設計・展開・評価の各過程での留意点を理解する。			
授業の概要 特別支援学校の自立活動の授業、あるいは自立活動の指導を取り入れた授業の設計・展開・評価の各過程での留意点について考察する。			
授業計画 第 1 回：特別支援学校における自立活動の基本的な考え方（岸） 第 2 回：自立活動の個別の指導計画（目標設定過程）（丹治） 第 3 回：自立活動の個別の指導計画（指導内容と指導場面の設定、実践と評価過程）（丹治） 第 4 回：各教科等の授業における自立活動の指導（佐藤） 第 5 回：自立活動の時間の指導の実際（知的障害）（丹治） 第 6 回：自立活動の時間の指導の実際（肢体不自由）（佐藤） 第 7 回：自立活動の時間の指導の実際（視覚障害）（岸） 第 8 回：特別支援学校における自立活動の課題（佐藤） 定期試験は実施しない			
テキスト 授業で資料を配布する。			
参考書・参考資料等 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）同（高等部）			
学生に対する評価 小課題（30％）レポート課題（70％）			

授業科目名： 特別支援教育コーディネーター実践論 A		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大守伊織、宮崎善郎、吉利宗久、丹治敬之
		担当形態：オムニバス		
科 目		特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育推進の担い手である特別支援教育コーディネーターの役割や使命を理解し、学校現場で求められる具体的支援内容や配慮すべき事項を自ら考え、校内外における支援に関する実践力の向上を図る。				
授業の概要 特別支援教育コーディネーターの役割や使命に関わる基本的事項を学習するとともに、教育現場で特別な支援を要する子どもの理解と支援方法に関する検討を行う。				
授業計画 第1回 オリエンテーション、特別支援教育の理念と制度 （吉利） 第2回 特別支援教育コーディネーターの役割と求められる資質 （吉利） 第3回 個別の指導計画と個別の支援計画の作成と活用 （宮崎） 第4回 校内支援体制の構築と課題 （宮崎） 第5回 保護者との連携の意義と課題 （大守） 第6回 関連機関との連携の意義と課題 （大守） 第7回 認知特性のアセスメント(WISC) 意義と方法・解釈 （丹治） 第8回 認知特性のアセスメント(K-ABC) 意義と方法・解釈 （丹治） 定期試験は実施しない				
テキスト 適宜、資料を配布する				
参考書・参考資料等 ・文部科学省「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン～発達障害等の可能性の段階から、教育的ニーズに気づき、支え、つなぐために～」（平成29年3月）				
学生に対する評価 受講態度（50％）、小課題（20％）、最終レポート課題（30％）により評価する。				

授業科目名： 特別支援教育コーディネーター実践論B		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 佐藤 曉、岡田千登勢、岸哲志、下中村武
				担当形態：オムニバス
科 目		特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育推進の担い手である特別支援教育コーディネーターの役割や使命を理解し、学校現場で求められる具体的支援内容や配慮すべき事項を自ら考え、校内外における支援に関する実践力の向上を図る。				
授業の概要 特別支援教育コーディネーターの役割や使命に関わる基本的事項を学習するとともに、教育現場で特別な支援を要する子どもの理解と支援方法に関する検討を行う。				
授業計画 第1回 行動アセスメントの方法 (岸) 第2回 行動アセスメントの解釈 (岸) 第3回 特別支援学校における特別支援教育コーディネーターの実践理論 (岡田) 第4回 特別支援学校におけるセンター的機能の実践 (岡田) 第5回 通常の学校における特別支援教育コーディネーターの実践理論 (下中村) 第6回 通常の学校における特別支援教育コーディネーターの実践上の課題 (下中村) 第7回 特別支援教育コーディネーター実践の到達点 (佐藤) 第8回 特別支援教育コーディネーター実践の課題 (佐藤) 定期試験は実施しない				
テキスト 適宜、資料を配布する				
参考書・参考資料等 ・文部科学省「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン～発達障害等の可能性の段階から、教育的ニーズに気づき、支え、つなぐために～」(平成29年3月)				
学生に対する評価 受講態度 (50%) ， ケースレポート・小課題 (20%) 、最終レポート課題 (30%) により評価する。				

授業科目名： 教育実践研究の方法 I A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大竹喜久、大守伊織 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
①特別支援教育を中心に研究方法の特徴を理解し、学生自身の教育実践研究上の関心・テーマを解決するのに適した研究方法を選択することができる。			
②その方法を用いた教育実践研究をプランニングできる。			
③教育実践研究の結果を適切な方法によりまとめ、報告することができる。			
授業の概要			
本授業は、文部科学省が示した教職大学院の共通科目5領域に加え、岡山大学教職大学院が独自に共通科目として設定したものである。「学校における実習」と連動する「教育実践研究」の質を高めるためのものであり、教育実践を論理的、客観的な科学的手続きによって進め、より妥当性の高い研究成果を算出するための研究方法を学修することを目的としている。具体的には、研究倫理、アクションリサーチについて取り扱う。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション：授業の目的と内容、教師が研究するとは（大竹）			
第2回：研究者倫理（大守）			
第3回：インフォームド・コンセント（インフォームド・アセント/代諾）の取り方（大守）			
第4回：個人情報保護（大守）			
第5回：利益相反の適切な管理・生命倫理（大守）			
第6回 アクションリサーチ：基本的な考え方とその歴史（大竹）			
第7回 アクションリサーチ：理論と実践の関係（大竹）			
第8回 アクションリサーチ：省察（大竹）			
定期試験を実施しない			
テキスト			
適宜、資料を配布する			
参考書・参考資料等			
秋田 喜代美・藤江 康彦（2019）．これからの質的研究法―15の事例にみる学校教育実践研究 東京図書 ISBN-13 ： 978-4489023071			
学生に対する評価			
受講態度（50％）、小課題（20％）、最終レポート課題（30％）により評価する。			

授業科目名： 教育実践研究の方法 I B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大守伊織、吉利宗久、丹治敬之 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
① 特別支援教育の視点から学生の教育実践研究上の関心・テーマを解決するのに適した研究方法を知る。			
②その方法を用いた教育実践研究をプランニングできるようになる。			
③教育実践研究の結果を適切な方法によりまとめ、報告することができるようになる。			
授業の概要			
本授業は、文部科学省が示した教職大学院の共通科目5領域に加え、岡山大学教職大学院が独自に共通科目として設定したものである。「学校における実習」と連動する「教育実践研究」の質を高めるためのものであり、教育実践を論理的、客観的な科学的手続きによって進め、より妥当性の高い研究成果を算出するための研究方法を学修することを目的とする。「教育実践研究の方法 I A」に引き続き、質問紙調査、事例研究、インタビュー調査を扱う。			
授業計画			
第1回 質問紙調査研究の理論（吉利）			
第2回 質問紙調査研究の方法（吉利）			
第3回 インタビュー調査研究の理論（大守）			
第4回 インタビュー調査研究の方法（大守）			
第5回 事例研究の理論（丹治）			
第6回 事例研究の方法：行動の定義と測定法（丹治）			
第7回 事例研究の方法：社会的妥当性（丹治）			
第8回 事例研究の方法：実験デザイン（丹治）			
定期試験を実施しない			
テキスト			
適宜、資料を配布する			
参考書・参考資料等			
西川 純 （2019）．実証的教育研究の技法 大学教育出版 ISBN-13 ： 978-4866920344			
学生に対する評価			
受講態度（50％）、小課題（20％）、最終レポート課題（30％）により評価する。			

授業科目名： インクルーシブ教育 実践論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 吉利宗久
			担当形態：単 独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 ノーマライゼーションの理念やインクルーシブ教育の具現化に向けた動向をふまえ、特別支援教育システムの到達点と課題を理解する。とりわけ、今後の学校教育において取り組むべき課題について、特別支援教育の意義、歴史的展開や政策動向の視点から学習することを通して、わが国におけるインクルーシブ教育システム構築のための実践的課題を認識する。			
授業の概要 インクルーシブ教育の具現化に向けた制度改革が推進されており、新たな特別支援教育システムの構築が模索されている。本講義では、「特殊教育」の歴史的発展の経緯を捉えつつ、特別支援教育・インクルーシブ教育における制度的枠組みと実践的課題について論じる。			
授業計画 第 1 回： 特別支援教育の理念と歴史的展開 第 2 回： 特別支援教育の法制と政策 第 3 回： 個別の教育支援計画の理論と実際 第 4 回： 特別支援教育における保護者支援の理論と実際 第 5 回： 障害者差別解消法の枠組み 第 6 回： 合理的配慮の事例的検討 第 7 回： 国際的なインクルーシブ教育の動向 第 8 回： 特別ニーズ教育・インクルーシブ教育の展望・定期試験			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 受講生の希望に応じて、講義中に案内する。			
学生に対する評価 授業への参加態度・意欲（50点）、小レポート（20点）、および試験（30点）により評価する			

授業科目名： インクルーシブ教育 実践論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 吉利宗久
			担当形態：単 独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育・インクルーシブ教育に関する教育学的文献の講読と検討を通して、近年における研究動向の把握や研究方法に関わる基礎的知識（論文の構成や展開、批判的分析視点、読解力、表現力等）の獲得・向上を図る。			
授業の概要 「インクルーシブ教育論Ⅰ」をふまえ、特別支援教育・インクルーシブ教育に関する歴史、法制度、外国動向等の教育問題に関する文献資料、事例を自らの問題意識に基づいて収集・整理し、教育実践の視点からディスカッションする。			
授業計画 第1回：文献検索・資料収集の方法（データベースを用いた資料収集法、記述法等） 第2回：特別支援教育学研究の方法（1）（文献研究の解説） 第3回：特別支援教育学研究の方法（2）（面接法の解説） 第4回：特別支援教育学研究の方法（3）（質問紙法の解説） 第5回：個人発表・討論（1）（収集文献の講読・文献研究） 第6回：個人発表・討論（2）（収集文献の講読・面接法） 第7回：個人発表・討論（2）（収集文献の講読・質問紙法） 第8回：全体まとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 受講生の希望に応じて、講義中に案内する。			
学生に対する評価 授業への参加態度・意欲（40点）、発表内容（60点）により評価する。			

授業科目名： 視覚障害教育実践学A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 岸 哲志
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 視覚障害の特性を適切に理解し、それらを踏まえた指導・支援のあり方について考える視点を明確に持つ。			
授業の概要 各教科や自立活動等における具体的な指導法、教材・教具の工夫について学習を進めていく。			
授業計画 第1回・2回：視覚の基本 第3回・4回：視覚障害者の生活上の困難とその支援 第5回・6回：視覚障害者の生活基本技術の実際 第7回・8回：視覚障害者の歩行訓練の実際①（屋内歩行） 第9回・10回：視覚障害者の歩行訓練の実際②（ガイド歩行） 第11回・12回：視覚障害者の歩行訓練の実際③（白杖歩行） 第13回・14回：視覚障害者の歩行環境 第15回：視覚障害者と福祉サービス			
定期試験			
テキスト 視覚障害児・者の歩行指導 (2010) 北大路書房			
参考書・参考資料等 授業で適宜配布する			
学生に対する評価 授業ごとの小課題と最終レポートにより評価する。			

授業科目名： 視覚障害教育実践学B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 宮崎 善郎
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 視覚障害の特性を適切に理解し、それらを踏まえた指導・支援のあり方について考える視点を明確に持つ。			
授業の概要 各教科や自立活動等における具体的な指導法、教材・教具の工夫について学習を進めていく。			
授業計画 第1回・2回：教育課程における自立活動の位置づけ 第3回・4回：弱視児の学習とその支援 第5回・6回：弱視レンズの選定 第7回・8回：弱視レンズの指導 第9回・10回：教科学習における弱視レンズの活用 第11回・12回：弱視児のICT活用 第13回・14回：弱視児用教材作成演習 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 青柳まゆみ，鳥山由子(2019)，新・視覚障害教育入門			
参考書・参考資料等 五十嵐信敬(1993)，視覚障害幼児の発達と指導			
学生に対する評価 授業ごとの小課題と最終レポートにより評価する。			

授業科目名： 聴覚障害教育実践学A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 下中村武
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
聴覚障害児教育について、インクルーシブな環境における子どもの教育や関わりのあり方について理解を深めるとともに、合理的配慮やバリアフリー、ユニバーサルデザイン、アクセシビリティ、インクルージョンなどの概念について理解する。また、聴覚障害児への情報保障技術に触れ、その必要性について体験的に理解する。			
授業の概要			
聴覚障害児教育の概要を扱い、特に、通常の学校における聴覚障害児教育のあり方について説明するとともに、聴覚障害児への情報保障について実習も取り入れながら、実践的に支援技術を理解する。また、聴覚障害児が学ぶ環境を個人モデルから社会モデルで捉える必要性について、法的背景も含めて解説する。加えて、障害にとどまらず、「聞こえ」を切り口として、共生社会のあり方を考える観点として、合理的配慮、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、アクセシビリティ、インクルージョンについて取り上げる。			
授業計画			
第1回：聴覚障害児教育の概要			
第2回：聴覚障害の定義と心理・生理・病理			
第3回：通常の学校における聴覚障害児教育（1）			
第4回：通常の学校における聴覚障害児教育（2）			
第5回：聴覚障害児への情報保障（1）（手書きノートテイク）			
第6回：聴覚障害児への情報保障（2）（パソコンノートテイク）			
第7回：聴覚障害児への情報保障（3）（手話）			
第8回：障害の医学モデルと社会モデルと聴覚障害の捉え方			
第9回：通常の学校における聴覚障害児への合理的配慮			
第10回：大学における聴覚障害学生への合理的配慮			
第11回：聴覚障害とバリアフリー			
第12回：聴覚障害とユニバーサルデザイン			
第13回：聴覚障害とアクセシビリティ			
第14回：聴覚障害とインクルージョン			
第15回：まとめ			
第16回：テスト			

テキスト
宇高二良・長嶋比奈美・加藤哲則 編著（2021）聴覚障害教育領域 聞こえの困難への対応．建帛社．
参考書・参考資料等
田中真理・横田晋務 編著（2023）障害から始まるイノベーション．北大路書房．
学生に対する評価
授業後の小レポート35点、期末テスト65点

授業科目名： 聴覚障害教育実践学B		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 岡田千登勢
				担当形態：単独
科 目		特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標 聴覚障害者教育において、幼児児童生徒の聴覚障害の状態や特性を踏まえた指導における配慮事項について理解するとともに、教育課程と指導法や具体的支援内容について考え、校内外における教育実践力の向上を図る。				
授業の概要 聴覚障害者教育の実践に関わる基本的事項を学習するとともに、聴覚に障害を有する子どもの理解と教育現場における指導及び支援方法に関する検討を行う。				
授業計画 第1回 聴覚障害者教育の変遷、コミュニケーション手段 第2回 聴覚障害の状態の把握 第3回 聴覚障害者教育の教育制度と教育課程、教育内容 第4回 聴覚障害幼児児童に対する指導の配慮と工夫 第5回 聴覚障害生徒に対する指導の配慮と工夫、職業教育・キャリア教育 第6回 聴覚障害者教育の実践：教科指導 第7回 聴覚障害者教育の実践：自立活動 第8回 自立活動との関連を踏まえた授業づくり 定期試験は実施しない				
テキスト 適宜、資料を配布する				
参考書・参考資料等 大沼直紀監修・著（2017）教育オーディオロジーハンドブック．ジアース教育新社				
学生に対する評価 受講態度（50％），小レポート（20％）、最終レポート課題（30％）により評価する。				

授業科目名： 特別支援教育病理の遺 伝学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大守伊織
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
① 障害者に対する優生思想の歴史を理解する。			
② 心身障害が発症する遺伝学的メカニズムを理解する。			
③ 遺伝学の観点から心身障害が人の多様性のひとつであることを理解する。			
授業の概要			
医学の進歩によって、小児期に発症する心身障害の原因の多くは、染色体異常や遺伝子異常であることが明らかになってきた。出生前診断は、障害を排除する優生思想と地続きという指摘もある。遺伝学の観点から、障害とは何か、多様性とは何かを思考する授業を行う。グループワークでは、個々の考えを否定せず、他者への敬意・理解を促す。			
授業計画			
第1回 講義概要説明、障がい者に対する差別・偏見とはなにか？（グループワーク）			
第2回 世界および日本における優生思想・法律の歴史			
第3回 染色体・遺伝子・遺伝のしくみ・DOHaD仮説			
第4回 染色体異常（ダウン症）			
第5回 遺伝子異常によって発症する病気（筋ジストロフィー等）			
第6回 出生前診断・着床前診断の進歩と現代社会における葛藤			
第7回 出生前診断で我が子に障害があるとわかったらどのような選択をするか？（グループワーク）			
第8回 グループ発表			
テキスト			
トンプソン&トンプソン遺伝医学 メディカルサイエンスインターナショナル第2版			
参考書・参考資料等			
病気が見える vol15 小児科 医療情報科学研究所 メディックメディア第1版			
学生に対する評価			
小課題（30％）レポート課題（30％）グループワーク（40％）			

授業科目名： 特別支援教育病理の脳 科学 A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大守伊織 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 ① 脳の基本的生理機能を理解する。 ② 知的障害・各種の認知機能障害が発症する脳神経病理を理解する。 ③ 知的障害・各種の認知機能障害を脳科学の視点から理解でき、子どもに対し、障害の特性をふまえた適切な学習支援ができるようになる。			
授業の概要 ヒトは生まれてきてからずっと様々な学習を続けている。記憶・学習を可能にしている脳機能を概説する。知的障害や各種の認知機能障害はこの基本的な脳の生理機能の破綻によって発症している。知的障害等を脳の局在機能から理解し、脳科学の視点から障害の成り立ちを捉えることができるようになる。このことによって、障害の理解が進み、障害の特性を踏まえた子ども支援が可能になる。			
授業計画 第1回 講義概要説明 第2回 神経系の全体像・ニューロン・グリア細胞 第3回 膜電位とシナプス伝達 第4回 大脳皮質の構造と機能（1） 第5回 大脳皮質の構造と機能（1） 第6回 記憶・学習のしくみ 第7回 知的障害・神経発達症の症状や合併症 第8回 総括：障害の特性を踏まえた子ども支援			
テキスト 授業で適宜配布する。			
参考書・参考資料等 病気がみえる<vol. 7> 脳・神経 医療情報科学研究所			
学生に対する評価 小課題（30％）レポート課題（70％）			

授業科目名： 特別支援教育病理の脳 科学 B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大守伊織
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
① 神経発達症（自閉スペクトラム症）の病態メカニズムを理解する。			
② 神経発達症病理の研究手法・研究成果を理解する。			
③ 神経発達症病理を脳科学の視点から理解でき、子どもに対し、障害の特性をふまえた適切な学習支援ができるようになる。			
授業の概要			
発達障害の中でも自閉スペクトラム症は増加しているといわれる。遺伝学的解析やモデル動物をもちいた神経生物学的アプローチによってその分子病態が明らかになりつつある。本講義では「脳からみた自閉症」を読み解きながら、自閉症の基礎病態を学ぶ。			
授業計画			
第1回 講義概要説明			
第2回 自閉症とは何か			
第3回 脳はどのように発生発達するか			
第4回 ここまで分かった脳と自閉症の関係			
第5回 自閉症を解き明かすための動物実験			
第6回 自閉症を起こす遺伝子はあるか			
第7回 増加する自閉症にいかに対処するか			
第8回 総括：障害の特性を踏まえた子ども支援			
テキスト			
授業で資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
脳からみた自閉症「障害」と「個性」の間 大隅典子（著）			
学生に対する評価			
レポート課題（70％） グループワーク（30％）			

授業科目名： 特別支援の心理A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 丹治敬之
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 通常の学級や通級による指導、特別支援学級、および特別支援学校における、認知・発達等の心理特性に応じた指導や教材づくりについて理解および実践する。			
授業の概要 主に知的障害、発達障害（学習障害、注意欠如多動性障害、自閉症スペクトラム障害等）の心理特性を理解し、特別支援教育における心理学的研究を参考に、通常の学級や通級による指導、特別支援学級、および特別支援学校における個に応じた教材づくりや指導法について考察する講義である。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：発達障害のある子どもの認知・発達特性のアセスメント：知能検査の紹介 第3回：発達障害のある子どもの認知・発達特性のアセスメント：認知検査の紹介 第4回：アセスメントに基づく指導：通級における学習・行動面の指導 第5回：アセスメントに基づく指導：特別支援学級における学習・行動面の指導 第6回：行動の機能アセスメントとポジティブ行動支援 第7回：通常の学級におけるポジティブ行動支援 第8回：特別支援学校におけるポジティブ行動支援 レポート			
テキスト R. E. オニールら著、三田地 真実、神山 努 監訳（2017）子どもの視点でポジティブに考える問題行動解決支援ハンドブック．金剛出版．			
参考書・参考資料等 適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 講義中の意欲・態度・発言・ワーク（30％）、レポート・期末試験（70％）			

授業科目名： 特別支援の心理B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 丹治敬之
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 通常の学級や通級による指導、特別支援学級、および特別支援学校における、認知・発達等の心理特性に応じた指導や教材づくりについて理解および実践する。			
授業の概要 主に知的障害、発達障害（学習障害、注意欠如多動性障害、自閉症スペクトラム障害等）の心理特性を理解し、特別支援教育における心理学的研究を参考に、通常の学級や通級による指導、特別支援学級、および特別支援学校における個に応じた教材づくりや指導法について考察する講義である。			
授業計画 第1回：応用行動分析学（ABA）の理論と教材づくり 第2回：教材づくりと仕掛学 第3回：教材づくりの考察：ABAや仕掛学の視点から 第4回：通常の学級における発達障害児に対する教材づくりと指導法の考察 第5回：通級の指導における発達障害児に対する教材づくりと指導法の考察 第6回：特別支援学校における知的障害児に対する教材づくりと指導法の考察 第7回：自己の経験や課題意識から教材づくりの構想 第8回：教材づくりのプレゼンテーション 定期試験は実施しない			
テキスト 松村真宏（2023）実践仕掛学―問題解決につながるアイデアのつくり方。東洋経済新報社。			
参考書・参考資料等 適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 講義中の意欲・態度・発言・ワーク（30％）、プレゼンテーション（20％）、レポート（50％）			

授業科目名： 特別支援臨床実践学 A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 佐藤暁 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育の実践的側面について、心理・教育臨床の立場から理解する。			
授業の概要 特別支援教育にかかわる心理臨床事例と小中学校における授業事例を紹介し、特別支援教育実践の未来を展望する。			
授業計画 第1回 オリエンテーション、特別支援の実践とは何か 第2回 心理臨床とは何か 第3回 心理臨床の基本（1）態度・禁忌事項 第4回 心理臨床の基本（2）面接技法 第5回 心理臨床の基本（3）ゴール設定 第6回 心理臨床の基本（4）危機介入の技法 第7回 教育実践と心理臨床（1）学校現場でできること 第8回 教育実践と心理臨床（2）保護者支援 定期試験は実施しない			
テキスト 『障害のある子の保育・教育のための実践障がい学』、佐藤暁、ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 適宜、資料を配付する			
学生に対する評価 受講態度（50％）、小課題（20％）、最終レポート課題（30％）により評価する。			

授業科目名： 特別支援臨床実践学 B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 佐藤暁
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育の実践的側面について、心理・教育臨床の立場から理解する。			
授業の概要 特別支援教育にかかわる心理臨床事例と小中学校における授業事例を紹介し、特別支援教育実践の未来を展望する。			
授業計画 第1回 オリエンテーション、授業づくりとは 第2回 授業づくりが必要な理由 第3回 協同学習の概要 第4回 協同学習と特別支援教育・インクルージョンへの展望 第5回 協同学習の技法（1）学習課題 第6回 協同学習の技法（2）ペア、班学習 第7回 協同学習の技法（3）共有場面 第8回 協同学習の技法（4）学びを個に還す 定期試験は実施しない			
テキスト 『障害のある子の保育・教育のための実践障がい学』、佐藤暁、ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 適宜、資料を配付する			
学生に対する評価 受講態度（50％），小課題（20％）、最終レポート課題（30％）により評価する。			

授業科目名： 知的障害者教育実践学A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大竹 喜久
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 知的障害児教育の現場で頻繁に使用される重要なことば・概念について、子供の具体的な姿を描きながら説明することができる。 エピソード記述の仕方やメタ意味の導き出し方に関する基本的な事項を説明できる。また、特別支援学校をフィールドとして、読み手にありありと浮かんでくるようなエピソードが書けること、さらには、エピソード記述からメタ意味を導き出すことができるようになることを目指す。			
授業の概要 知的障害児教育実践の中で用いられる重要なことば・概念について、さまざまな実践事例や文献を参照しながらその意味を考える。 特別支援教育実践の中で生じている出来事を取り出し、そこから重要な概念を導き出す方法について教授する。			
授業計画 第1回：エピソード記述の重要性：特別支援教育の現場の実情より 第2回：フィールドに入り込む中で見えてくるもの 第3回：エピソードと意識体験 第4回：読み手がエピソードを読んで「分かる」とは 第5回：意識体験からメタ意味を認識するまでのプロセス 第6回：エピソードを読み解く 第7回：観察者の代替可能性 第8回：まとめ			
テキスト 鯨岡峻（2006）．ひとがひとをわかるということ ミネルヴァ書房 鯨岡峻（2016）．関係の中で人は生きる ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 講義で適宜配布する			
学生に対する評価 小レポート（50％）、エピソード記述（50％）に基づき総合的に評価する。			

授業科目名： 知的障害者教育実践学B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大竹 喜久
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 知的障害児教育の現場で頻繁に使用される重要なことば・概念について、子供の具体的な姿を描きながら説明することができる。 エピソード記述の仕方やメタ意味の導き出し方に関する基本的な事項を説明できる。また、特別支援学校をフィールドとして、読み手にありありと浮かんでくるようなエピソードが書けること、さらには、エピソード記述からメタ意味を導き出すことができるようになることを目指す。			
授業の概要 知的障害児教育実践の中で用いられる重要なことば・概念について、さまざまな実践事例や文献を参照しながらその意味を考える。 特別支援教育実践の中で生じている出来事を取り出し、そこから重要な概念を導き出す方法について教授する。			
授業計画 第1回：明証的であること 第2回：素朴な認識の枠組みと厳密な科学的認識の枠組み 第3回：エピソード記述とその解釈（1）知的障害特別支援学校の教科別指導の事例 第4回：エピソード記述とその解釈（2）知的障害特別支援学校の各教科等を合わせた指導の事例 第5回：エピソード記述とその解釈（3）知的障害特別支援学校の自立活動の時間の指導の事例 第6回：エピソード記述とその解釈（4）学生による発表と検討1 第7回：エピソード記述とその解釈（5）学生による発表と検討2 第8回：まとめ			
テキスト 鯨岡峻（2006）．ひとがひとをわかるということ ミネルヴァ書房 鯨岡峻（2016）．関係の中で人は生きる ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 講義で適宜配布する			
学生に対する評価 小レポート（50％）、エピソード記述（50％）に基づき総合的に評価する。			